

ゴルフ文化産業論

1 100コースの会員になれ
るはずが：諦めた時点ですべ
ては終わる…

17コースを保有する、よく知ら
れた共通会員制ゴルフ場グルー
プがあった。もともと東京近郊のH
相互銀行系のゴルフ場（Tクラブ）
で、日本を中心にアジア環太平洋
で100コースつくる、とぶち上
げて展開していたのだった。

昭和60年、相互銀行内部の覇権
争いから、経営悪化。翌年大手S銀
行がこの相互銀行を合併したこと
を受け、このゴルフ場グループを
引き取った。

メガバンクS銀行直営のゴルフ
場になったわけだ。実は、多額の会
員預託金付きのまま売られていた
のだが、その後のバブル経済で預
託金問題は忘れられてしまった。

しかし平成初期のバブル崩壊と
それに続く長期の不況は、大手S
銀行にもTクラブを手放す決断を
強いた。

さすがにS銀行はそれを公表
することができなかったのだが、
2007年、大手電鉄系A不動産
にゴルフ会社の株とゴルフ場向け
抵当権つき債権600億円を、合
計200億円で売った。もちろん
会員からの預かり金600億円は
そのままだ。しかもS銀行は、Tク
ラブとAグループの提携だとし
て、行員をTクラブに派遣してま
で会員権を売る手伝いをしてい
た。

A不動産は、いわば生煮えの
ゴルフ場を購入したわけだが、
2008年リーマンショックと
2011年東日本大震災は、同不
動産の思惑を打ち砕いた。

A不動産は、2012年初頭外
資系安売りゴルフ場経営会社C社
に転売するべく、Tクラブに民事
再生をかけた。

C社はそのような形で日本の大
手ゴルフ場グループを次々と手に
入れ、上場までした日本一のゴル
フ会社だった。

しかしそれが2万人会員の怒り
を買う。

されどゴルフ場には抵当権付債
権が付いており、会社側がそれも
押えていた。だから会員側が勝て
ると考える法律家は、ゴルフ大好
き会員弁護士N以外には、ひとり
もいなかった。従業員も会員の多
くも、諦めるしかないと思いつま
まれていた。

ところが、この予想は見事に裏
切られ、会員は完璧な勝利を勝ち
取ってしまったのだ。

社会的に弱い人たちが闘うためには…



西村國彦（にしむら・くにひこ）

お酒は飲めないしカラオケも駄目の営業下手の弁護士。そんな男が40歳を迎える年、ゴルフを始めたことから人生も性格も激変。ゴルフ
大好き仲間を求めるオラセイになって、世界を放浪。ゴルフオラセイも書く傍ら、法的に強いゴルフ場会員たちの権利を守るため、「新理
論」を構築。ハゲタカ外資にも正面から闘いを挑み、撃破。最近、ジャズの世界も覗いている。日本ゴルフジャーナリスト協会理事。

至った。

さて、会員たちの勝因は何だっ
たのだろうか。

N弁護士が考えていたのは、こ
んなことだ。

まずは、鋭い問題意識を共有で
きる会員を3人探すことから始め
る。

その3人の周りには、彼らに共
感し行動を共にする仲間が、それ
ぞれ最低10人はいるはずだ。そこ
でまず核となる30人が出現する。

そして、その30人の周りには、彼
らのシンパが、それぞれさらに10
人はいるはずだ。それで最初の3
人が呼びかけると300人近くが
行動する機動部隊が出来るわけ
だ。

300人がまとまって行動すれ
ば、マスコミも取り上げざるを得
ない。

ということでは、300人の行動
で、一つの世論が形成される可能
性が生まれるわけだ。マーケット
理論でも、流行は敏感な3%が動

くとその周辺の関心ある層が動き
出し、20%に達すると大ヒットに
なるという。

ズボンの太さやスカートの長さ
の流行を思い浮かべて欲しい。

世の中の流行と社会的な運動に
は、実は共通性があるのだ。

そのような社会的運動をつぶし
てしまうのは、仲間同士の争いで
ある。そんな仲間内の争いとは、
全体の空気を読んでいる中間層の
離反を引き起こしてしまう致命的
な原因なのだ。

だからこそ、いつの世でも支配
者は、「分断して統治せよ」を買い
ているのだ。社会的な運動の「敵
」は、常に運動体の分裂を仕組むと
いうのは、歴史が証明している。そ
の分裂策動が成功すると、社会的
な運動は、あつという間に収束す
る。

多くのゴルフ会員の運動がそう
して挫折してきた。まさに、OBR
インのない、なんでもありのゴル
フの世界で、会員は常に「分断」さ

れて、「統治されてきたのだ。
天は自ら助くる者を助く。その
詳細は拙著『ゴルフ場そこは僕ら
の戦場だった』（2015）ほんの
木をお読み下さい。

社会的に弱い人たちの闘う キーワード…

- ①絶対に最後まで諦めないこと
- ②仲間内で絶対けんかしないこと
に尽きるのだ。



あきらめずに頑張ると援軍が…

本文のTクラブ会員たちを支えるスポンサーマル
ハンオーナー韓さんにも、もう自分の会社が駄目な
らと諦めかけた時期があったそうだ。

ボウリング事業で大失敗。数十億の負債の大き
さに、さすがの韓さんもなすすべもなく、貸出先の日本
の金融機関に事業閉鎖を告げに行った。

ところが、そこで意外なことに、日本人の行員から
こんな言葉を聞いたのだ。「あなたがギブアップした

ら、保証人さん皆さんが倒れるのですよ。だから考え
直して、頑張ってください。応援するから」と。おそらく、
金額的には、無理な会社再建だったと思う。

でも確かに、私の経験からしても、金額的に無理な
事業再建事例は、いくつもある。それは一見不可能な
ことを一生懸命やっている、いつの間にか応援者
が増えてきて、想定外の再建が可能になるのだ。先の
見えにくいゴルフ界で、一生懸命やっている人たちに
探し出して応援しよう。